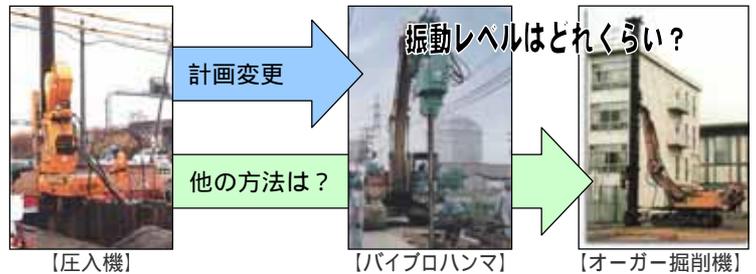


## 今回の事例

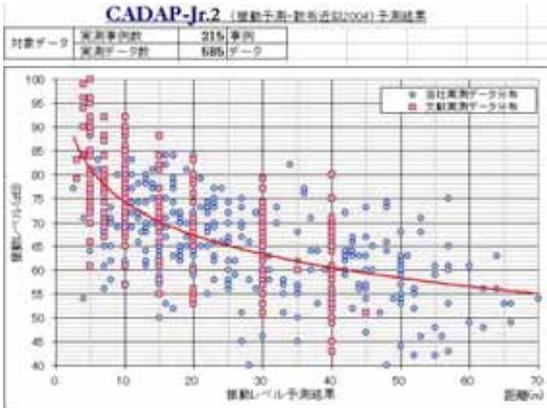
## 工事振動の影響を考えた調査範囲

### 問題発生

地盤が固くて山留施工を、圧入機からパイプロハンマに替えようと思います。でも、他の工法はないのでしょうか？



### 提案事項



【パイプロ振動の実測データ検索結果(例)】

パイプロハンマは圧入機より発生振動が大きいため、事前調査の範囲を次のように再検討してみます。

CADAP-Jr. 振動測定実測データベースから、パイプロハンマとオーガー掘削時の発生振動レベルを求めます。

CADAP-Jr.の距離減衰算定法によって、振動が一定のレベルに減衰するまでの距離を求めます。

$$Lvr = Lvr_0 - 20 \log_{10} (r/r_0)^n - 8.68\alpha(r-r_0)$$

実際の建物の被害事例から許容レベルを設定します。

振動規制法では、敷地境界での振動レベルは75 dBですが、建物の振動被害や苦情を考えると、許容値は70 dBとしたほうがよいと思われます。( CADAP-Jr. [影響範囲簡易算定システム] NETIS 登録 GC-990038)

### 問題解決

